

●木津川希少種植生調査管理業務完了報告 追加修正箇所連絡 再提出

29 日木津川出張所へ 3 月 15 日に淀川河川事務所へ完了報告書を提出し、受理されました。23 日には不足物の修正追加資料提出指導を受けました。そして本日 29 日には修正部分を加えて提出することに漕ぎつけました。今回の報告書の作成では、こうした正式なものの作成を行った経験がなく、全く素人の知恵を振り絞って作成したのですが、行政的には説明不足のところもありました。いずれにしても話や説明を聞けば理屈が進むのですが、一般生活者には、通用してもというところがあって随分と学習させられました。いい経験でした。

●地域説明会「木津川はどんな川」の展示会

山城地域の自治体のうち「市制」のところで開催を行いました。開催地 5 カ所で最も人気があったのが「山城の歴史と木津川」という冊子でした。数冊をもっていきしましたが、ほとんどのところでいい企画であり、いい内容なので、この本の購入を希望しますと問い合わせをいただきました。これからも希望者が予想されますので、増刷をいたしました。全 135 ページすべてが写真印刷なので、いい冊子になっています。予想をよりかなり高額ですが、財源がなく、あまり無理ができませんので、先着数十名様にのみご利用頂けることになりました。なくなり次第となりますので、その節にはご容赦ください。

●京都府地域力再生プロジェクト交付金の事業報告会計の書類完成

2017 年度の地域力再生プロジェクト事業の実績報告書には事業計画に基づき 1 年間をかけて行ってきた結果をまとめて決算報告（領収書を添えて）を提出しなければなりません。事業ごとにかかなり注意してまとめているのですが、次のスケジュールに追われて、思うようにまとめができていないので、年度末になって大慌てが毎年のように繰り返しとなります。今年は年度末の報告提出先が増えて、てんてこ舞いの忙しい年度末となっています。国交省 京都府 民間企業、そして里山の会自身の決算に加えて、会誌発行の準備、通常総会と理事会準備が集中してあつという間に期日が押し迫ってくることになります。肉体的にも大変ですが、精神的には随分と追い込まれます。毎年正月ごろから取り組みを始めるのですが、今年は随分と遅れてしまって全く余裕がない中での準備となりました。先日の第三回理事会では専従職員の設置無くして、里山の会の事務処理は立ち行かなくなることは明白だと記述し事態の共有化を図りました。我と思わんお方がおられましたら名乗り出ていただきたいものです。イベントを中心にした報告書の作成と会誌の活動報告づくり、会員名簿処理、諸連絡、金銭出納帳への記載などパソコンを扱えれば、どなたでもできる作業です。この部分だけでもご援助いただけると大助かりです。

●春定番の親子花見乗船体験

4 月 8 日（日）午前 10 時開始の予定です。昨年の経験から開催日を一週間遅らせてみると、今年は早くも桜の満開が全国から伝えられるなど、季節の異常な移ろいによって、昨年と同じような花のない花見の恐れも考えなければならないようです。何とか 8 日まで持ってほしいと願うのは私一人ではないと思います。11 回目となるこの取り組みで、今年は府営団地の自治会の方々のご都合が悪く、里山の会が主催する体制的には厳しいと予想される取り組みとなります。

これまで親子花見乗船体験にかかわっていただきました皆様方をお願い申し上げます。経験を生かして、ご協力をいただければまことに幸いでございます。役員の集合は午前 9 時、第 3 集会所広場となっております。ぜひ一足お手伝いにお越しく下さい、心よりお願い申し上げます。これまで 10 回の取組では乗船はいずれも無料でした。この取り組みでは水上でのとりくみなので万一の場合を考えると保険料や用具の借り上げ（ライフジャケット、カヌー）、に加えて、川の貯水のための堰止めの電気料金、そし

て借用料金等相当な負担があります。これまでは無料ということで自治会や里山の会の負担で行ってききましたが、今後の取組ではこうした経費負担もかなりの額となりますので、乗船については有料化も取り入れなければならないかと思われます。いい知恵をお貸してください。

先着順 200 名までとして運営いたします。自分で作る綿菓子 100 円を購入いただくことも一案化と思います。

●カスミサンショウウオ調査

4 月 14 日（土）集合午前 10 時、普賢寺小学校前または里山農園です。桜谷先生来所いただきご指導をお願いしています。2 月 17 日の調査で、これまでになかった最多数の 24 個の卵囊が見つかりました。山火事など万一の出来事で棲みかが焼失した場合を考えると第 2 の棲み処を見つけて生存を維持することが必要ではないかと、京都府自然環境課に相談してきましたところ、冒険を選ぶより現状保存こそが望ましいとの返答でした。移動させると数年間は観察記録を取らなければなりません。その体制を確保しなければならず、里山の会の力量からしてかなりの負担になるとのことから、必要性は理解するが、我々里山の会としては、移植管理は無理と判断しました。

●春の野草を味わう会

4 月 14 日（土）10 時里山農園集合 13 時解散 参加費 500 円

●里山農園に津川さんというお方が駆けつけていただきました

津川さんはここ 10 年程南山城村に田んぼや畑をもって営農を続けてこられました。一週間に 3～4 日久津川から出かけておられたそうです。これから長く続けていくことは負担が重く大変となるので、城陽市の奥田ななみさんを訪ねて、里山の会を紹介されて事務所にお越しいただきました。

里山農園に案内すると、自分の耕運機を早速持ち込み、やる気満々のお方です。ご活躍を大いに期待します。待ちに待った経験豊かなお方がお越しいただきました。